

若槻団地自治会 「若国はつらつクラブ」



10、11月に行われた
体験シリーズの様子



1人ではなかなか続かない「運動(ストレッチ・筋トレ)」を中心に、楽しく活動しています。介護を必要とする時期を少しでも遅らせましょう。

○とき 毎週木曜日 9:30~11:00

○ところ 若槻団地自治会館ホール

★現在新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1月14日(木)まで
休止中。再開時には改めて回覧にてお知らせします。

(感染状況によっては休止を延長する可能性があります。)

●お問い合わせは若槻団地自治会福祉推進員・健康委員まで

人権に関する作文発表 (若槻小学校)

コミわかでは人権教育・啓発活動として毎年住民集会を開催し、小中学校の生徒さんへ人権作文を発表していただいておりますが、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため住民集会の規模を縮小し(最終的に中止としました)、生徒さんの作文は広報誌による発表とさせていただきます。(人権教育部会)



友 達

若槻小学校 六年
金澤 和杜

ぼくが学校生活を送っていく中でとても大切だと思っていることは「友達」です。そして、友達がいることで学校生活は楽しさが増すと思います。

ぼくがそう考えた理由は、ぼくが二年生のときに外でおにごっこをしていた時のことです。ぼくは走っていきまわってしまいました。ひざやひじにけがをして、とても痛くてすぐには立てませんでした。するとすぐに友達がかけてきて、「だいじょうぶ？」と声をかけてくれました。けがをしたぼくは、その一言でとても安心したことを今でも覚えています。そしてその友達はその後もしょに保健室について行ってくれ、保健の先生に話してくれました。ぼくのかわりにぼくの痛みがわかってくれて、本当にうれしく思いました。

では、このようないい友達をつくるためにはどうしたらいいのでしょうか。ぼくは、いい友達をつくるためには、ぼくが転んだ時に話しかけてくれた友達のように、思いきって話しかけてみるべきだと思います。きっと話しかけたら話しかけられた人もうれしくなるのではないかと思います。また、自分と共通点が見えてくるかもしれません。自分から話しかけるには勇気が必要だと思いますが、勇気さえ出せばきっと次第に心が打ち解け、話しが楽しくなってくると思います。

このように、ぼくは勇気を出し、自分からいろんな人に話しかけていくことができれば、学校生活がさらに楽しくなっていくと思っています。

今年の児童会活動では、「槻っ子みんなで助け合い大きな思いやりの木を育てよう」というスローガンを掲げています。自分から話しかけられたら友達の輪が学校全体に広がり、助け合うことにもつながっていきます。

ぼくたちはあと五か月ほどで小学校を卒業しますが、中学校に行ってもこの経験を活かし、一人になってしまう人がいないようにしていけると思います。

人種差別について

若槻小学校 六年
依田 日葵

私は、ニュースを見ていると、黒人の人などが差別はよくないとデモを起こしている様子をよく見ます。

ある日の夜、私がいつものようにニュースを見ていると、また黒人差別についてのデモの様子が流れていました。しかし、今回流れたデモの様子は前の日よりも激しさが増していました。すると映像が切り替わって、警察と市民がやり合っている様子が流れました。「大じょうぶかな？」と思ったしゅん間、なんと警察が市民をじゅうどうってしまいました。私はおどろきました。市民を守る警察がうってしまうなんて、罪の無い人を殺してしまうなんて、と思いました。うたれた人は幸い足をうたれていたので生きていました。

うたれた人は重症だったので、さすがの警察も救急車を呼んでくれるだろうと思ったのに、警察は私の予想外の行動をしました。なんと「けた」のです。もうそれは、取るべきは行動をする警察の姿とはいえませんでした。けが人は苦しんでいるのに、平気で暴力をふるっている警察の姿を見て悲しくなると同時にいかりがわいてきました。

市民は正論を述べているのになぜ警察は市民に暴行するのか、警察の気持ちが全く分かりませんでした。

人間は人間なのになんで肌の色で差別をするのだろうと思ってしまいました。

肌の色がちがっているからといって、差別されて悲しい思いをしている人の気持ちを考えられない人たちが差別しているのだと思いました。

差別をしてはいけないということが子どもでも分かっているのに、それをなんで大人たちがしてしまうのだろうと思いました。

差別をしている人は、差別をしてはいけない。差別をされたらどんな気持ちだろうと考えるやさしい心はどこへ行ってしまったんだと思います。